北九州市立文学館ニュース
文学の栞（しおり）
Kitakyushu Literature Museum News
第20号
2016年10月1日発行

開館十周年を迎えて

館長　今川　英子

この十一月一日で、当文学館は開館十周年を迎えます。十年間の延べ入館者数は約十五万六千人、収蔵資料は約十一万五千点となりました。

全国で文学館や文学者の記念館は、全国文学館協議会の加盟館が九八館、ネット上の文学館も含めると七百館を超えます。図書館とは似て非なるものであり博物館の類いですが、博物館法には「文学館」の名称は記されてなく、その運営母体、来歴、活動内容も様々です。

「文学館」のはじまりは一九六七年に開館した日本近代文学館です。文学資料の散逸に危機感を持った作家や研究者が設立に尽力。以後、高度成長や教養主義ともいえる文学への信頼を背景に全国的に増えていきました。その中で地域の文学館は、固有の歴史、風土、文化に育まれた文化遺産を再発見する役割を担いました。

当館は後発の文学館ですが、地域の文学館として、風土が作家に及ぼした影響や地域ゆかりの作家、地域を描いた作品などの文学資料の収集、調査、研究を行い、街の記憶として次世代への継承を主眼に展覧会や図録の作成、講演などを通して発信、普及に努めてまいりました。

「読む」という必然の行為を一旦切り離して、「文学」の魅力を展示物としてどのように伝え、いかに楽しんでいただくか。その前段階としてどうしたら市民の皆さまに足を運んでいただけるか。常に文学館が問われる大きな課題ですが、昨今はパソコンの普及で、自筆原稿や書簡等が存在しない環境になりつつあり、文学展示のあり方そのものの変革を突きつけられています。

文学館が多く開館した時期と、書籍や雑誌の刊行の最盛期は重なります。そこには当時の経済拡張主義や効率至上主義などに対しての、「人間性の回復」や「物質至上主義からの解放」としての「文学」が求められたともいえます。

それから四十年。市場主義と技術主義はますます先鋭化し、IT革命の次はAI（人工知能）革命を生み出そうとし、機械はロボットへ置き換えられようとしています。AIによる小説が芥川賞や直木賞を受賞することもあり得ないことではなくなりました。かつての枠組みは解体され、文学そのものも問われるなかで、ますます「人間性の回復」が叫ばれつつあります。人間の尊厳や創造的能力の破壊につながる、そのぎりぎりのところで踏ん張る役目を、文学が担っていることを信じます。

開館十周年を迎え、過去十年間のあゆみを検証すると同時に、展示リニューアルも含め、この先十年間の目標を設定してまいります。

文学館にはまだ十分に研究対象にされていない資料が多く眠っており、日々の活動の中で新資料を発見することもあれば、プライバシー等の関係ですぐには公にできないものもありますが、それらの価値を正しく見出すためには、研究者との連携も必要となってくるでしょう。

個人的な思いとして、市内の子どもたちが義務教育の間に一度は文学館を訪れ、ゆかりの作家たちが、この街を、人々をどのように描いてきたかに触れてもらい、この街に生まれ、育ち、生きていく自分に誇りを持ち、世界や未来に大きく羽ばたいてほしいと願うものです。

目　次

開館十周年を迎えて……1
宮西達也ワンダーランド展　ヘンテコリンな絵本の仲間たち……2
講演会「にゃーごのやさしさ・ティラノの思いやり」……3
ワークショップ「プテラノドンを作ろう！」
ギャラリートーク＆ライブペインティング
読み聞かせ＆ライブペインティング
ティラノサウルスがやってくる！
子ども俳句講座……4
文学館セミナー
「無法松の一生」ヴェネツィア映画祭
　金獅子賞受賞盾のご寄贈・展示
女性の眼と句で綴る演劇　風、騒グ
熊本文学の復興支援の協力
文学館10周年記念……5
森鷗外書簡の記念展示
上半期に行われた「偲ぶ会」の紹介
お祝い
千葉県市川市に宗左近詩碑が建立
没後70年　杉田久女顕彰プロジェクト……6
収蔵資料紹介　火野葦平原稿「帰還の言葉」
企画展でみる文学館10年の歩み……7
第23回特別企画展開催予告……8
　没後20年司馬遼太郎展「21世紀“未来の街角”で」
寄贈者・提供者、提供雑誌

夏休み期間にあわせて、特別企画展「宮西達也ワンダーランド展 ヘンテコリンな絵本の仲間たち」を開催しました。絵本作家・宮西達也さんの30余年の画業を原画やラフスケッチなどで紹介する全国巡回の展覧会で、このたび九州初上陸となりました。

第一部では、大ヒット作「ティラノサウルスシリーズ」を紹介。手書きで輪郭線を描いた原画と、原画をパソコンに取り込み彩色した複製画を上下に並べ、ストーリーと共に制作方法をご覧いただきました。また、シリーズ全13作品の場面を集めた大型ジオラマは大人気でした。

第二部では、正義の味方がお父さんとして奮闘する「おとうさんはウルトラマンシリーズ」を、原画や大型の立体パネルで紹介。他に、展覧会限定・ティラノサウルスとウルトラマンのコラボ作品「いとしのカラータイマー」のラフスケッチなども並びました。

第三部では、「ヘンテコリン」なキャラクター達が集まりました。意地悪なのに気が弱く優しいネコ（『にゃーご』）、間抜けで憎めないオオカミとちゃっかり者のブタ（『ぶたくんと100ぴきのおおかみ』他）など、ユーモアたっぷりの動物キャラクターは宮西作品の魅力の一つ。展示では、それぞれのキャラクター誕生の秘密をエピソードとともに紹介しました。

第四部では、初期作品の貴重な原画を展示。宮西さんは1983年、『あるひ おねえちゃんは』でデビュー、『どうしたのぶたくん』、『三角あき地のネコ人間』などを刊行しました。手描きで墨の輪郭線を描き、その上にトレーシングペーパーを重ねて色を指定するという当時の制作過程が分かる資料を展示しました。

第五部では、赤ちゃん絵本を紹介。シンプルなイラストと言葉の組み合わせが読み聞かせで人気の『おっぱい』、『はーい！』などの原画が並びました。また、ひもを引くと「はーい！」と返事をする動物の絵が現れる立体造作を設置、子ども達が何度もひもを引っ張って楽しむ様子が見られました。

ユニークな「宮西達也のワンダーランド」を体感できる展覧会となりました。

展示資料点数＝約180点

（担当　小野）

アンケート

・温かな優しさあふれる絵に心がホッコリして、気持ちが優しくなれました。（40代女性）

・『おまえ うまそうだな』が大好きで、図書館でいつも読んでいます。（10歳のお子様）

・「いっぱいいろんなお話を作ってすごいな、わたしも書きたいな」と思いました。（7歳のお子様）

講演会「にゃーごのやさしさ・ティラノの思いやり」

平成28年7月24日

開会を記念して宮西達也さんによる講演会を開催しました。

宮西さんは絵本の選び方と読み聞かせについて、「流行っている、為になるという理由ではなく、好きだと思う本を選ぶことが大切。好きな本なら気持ちが伝わるので子どもにたくさん読んであげて」と呼びかけました。また、3・11の大震災被害にあった陸前高田市の小学校に定期的に通い、読み聞かせを行っていることに触れました。家族を亡くした子ども達、現在も仮設住宅に住む人々が大勢いる現実を目の当たりにし、「一生懸命生きていきたい」と強く思われたそうです。宮西さんは子ども達に、「辛いことがあると逃げ出したくなるけれど、全部が自分の人生になります。一生懸命生きて」とメッセージを送りました。大人に向けては、「子どもは大人を見ているので愚痴ばかりで何もしない大人にならないで」と呼びかけ講演会を終了しました。

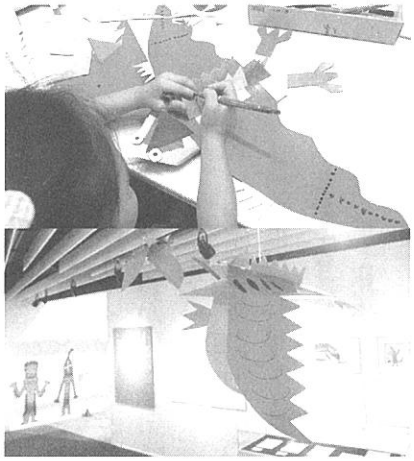
宮西達也さん

ワークショップ「プテラノドンを作ろう！」

平成28年8月6日

宮西さんを講師に、32名がプテラノドンの工作に挑戦しました。

最初に、厚紙を丸めてカラーガムテープでとめ、一方をくちばしの形に切ると胴体が完成。次に方眼の目盛に合わせて羽を切り取ります。子ども達は保護者の方と協力しながら作業を進めました。基本の形が出来あがったら、余った厚紙やペンで、目や足、舌などを付けます。羽をギザギザに切ったり、口から火を噴かせたり、それぞれ自由なアイデアで工夫していました。最後に、吊り下げるためのたこ糸をつけて完成。子どもたちからは、「だんだん形になっていくのがおもしろかった」、「自分なりのプテラノドンを作ることができ楽しかった」といった感想が出ていました。作品の一部は期間中、展示室に飾りました。



ギャラリートーク＆ライブペインティング 読み聞かせ＆ライブペインティング（7月23日、8月21日、9月18日）（8月7日、8月20日、9月19日）

■ギャラリートーク

宮西さんが作品に込めた想いを話されました。代表作『おまえうまそうだな』のテーマは、「優しさ」「思いやり」。宮西さんは「権力やお金より大切なものを伝えたい」と考え、「権力」の象徴としてティラノサウルス、対極の純粋な存在として草食恐竜の赤ちゃんをキャラクターに決め、ストーリーを作られたそうです。ユーモアを織り交ぜた、トークに参加者は聞き入りました。

■ライブペインティング

「動物が何かをしている」というテーマで参加者からリクエストを聞き、ライブペインティングを行いました。「キリンが自転車に乗っている」、「オオカミが花火をしている」など愉快な発想が飛び出し、宮西さんが絵に描きました。会期中に次々と描き足され、ヘンテコリンな動物たちの「ワンダーランド」が完成しました。

ライブペインティングの様子と描かれたイラスト（一部）

■読み聞かせ

宮西さんは、「絵本は読み聞かせてはじめて完成するもの」というスタンスで、全国各地で読み聞かせを行っています。宮西さんがイベントで必ず読むという『はーい！』『おっぱい』や、代表作『おまえうまそうだな』などが読まれました。『ドロドロドロンキーとゆうすいくん』では、来場者が登場キャラクターを演じ、盛り上がりました。

ティラノサウルスがやってくる！

平成28年7月30日、8月13日

人気シリーズのキャラクター・ティラノサウルスとの記念撮影会を行いました。最初は恐る恐る近づいていた子ども達も、写真を撮った後は、一緒に遊んだり手をつないだり、すっかり仲良しになっていました。

門司区在住の大岩小倖（こゆき）ちゃんと倖輔（こうすけ）くん

没後70年 杉田久女顕彰プロジェクト

北九州ゆかりの俳人・杉田久女が亡くなって70年が経ちました。北九州市では、その孤独な死を偲び、ひとりひとりが、久女の願った死後の友になるべく、顕彰事業を行っています。

○久女忌、坂本宮尾さん特別講演会

期　日　平成28年1月21日
会　場　圓通寺
講　師　坂本宮尾さん（俳人、東洋大学名誉教授）
演　題　杉田久女―その実像を追って

○坂本宮尾さん講演録

杉田久女没後七〇年特別講演録「杉田久女―その実像を追って」
問合せ　北九州市市民文化スポーツ局文化企画課
（093―582―2391）

○リーフレット「杉田久女　その生涯と作品」

制　作　久女・多佳子の会（北九州市文化振興基金奨励事業）
問合せ　文学館
※文学館で無料配布中

○『句画集杉田久女一〇一句』

画　西川幸夫　鑑賞　坂本宮尾
制　作　『句画集　杉田久女一〇一句』制作の会
※一般書店で販売（定価2000円）

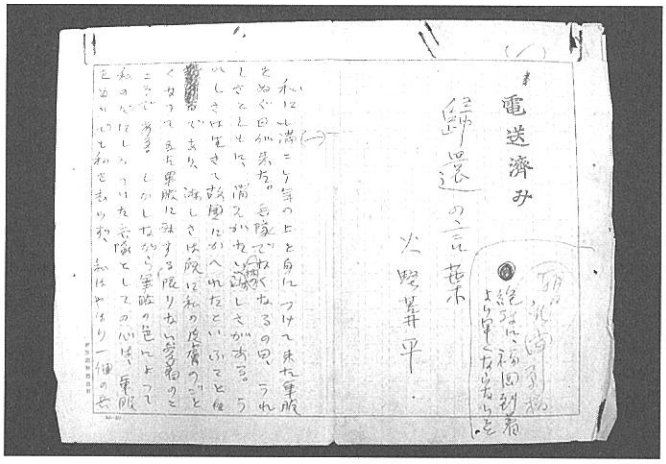
○文学館文庫別冊「杉田久女頌（仮称）」（予定）

これまでに11冊を刊行してきた文学館文庫の別冊です。杉田久女の1700を超える俳句と、代表的なエッセイ、評論からなる作品編に加え、豪華な寄稿7本を収めます。杉田久女の作品世界が一望できます。

俳　句　昭和44年版『杉田久女句集』（角川書店）掲載句。
散　文　「夜あけ前に書きし手紙」「菊枕」「大正女流俳句の近代的特色」など随筆・評論20編
寄　稿　阿木津英さん（歌人）、石太郎さん（遺族、杉田久女孫）、坂本宮尾さん（俳人、東洋大学名誉教授）、高橋睦郎さん（詩人、歌人、俳人）、坪内稔典さん（俳人、京都教育大学名誉教授）、西村和子さん（俳人）、増田連さん（杉田久女研究家）

来年1月21日（久女忌）に刊行予定です。文学館のほか、市内書店クエストでも販売します。

【収蔵資料紹介】火野葦平原稿「帰還の言葉」



400字詰め「東京原稿用紙H」（たて224×よこ300㎜）にペン書き、鉛筆による校正あり。

全19枚。1枚目、19枚目に折れ、破れ多数。綴じ穴、綴じ跡のシミあり。「電送済み」の朱印と「朝日新聞原稿／絶対に福岡到着より早くならないこと」のメモ。原稿末尾に「（十一月五日）」の日付あり。

火野葦平の原稿「帰還の言葉」は1939年11月5日に執筆され、同月7日から9日にかけ「帰還兵士の言葉」と改題して「朝日新聞」に掲載されました（全3回）。翌12月に刊行された単行書『戦友に愬ふ』（軍事思想普及会版）に早くも附録として収録されています。改行や漢字の用法に異同がありますが、大きな削除や内容の変更は見られません。

前年の38年、火野は小説「糞尿譚」で第6回芥川賞を受賞。日中戦争に従軍中だったため、陣中授与式を受け、世を沸かせました。報道部へ転属したのち、執筆した従軍記「麦と兵隊」が大ベストセラーとなりました。その後も中国内を転戦し、現地除隊を受けたのが、この39年11月でした。

一躍、戦時下のスター作家となった火野の言葉は待ち望まれ、帰国後は全国各地で講演会を行います。自筆と思しい「絶対に福岡到着より早くならないこと」のメモは、火野が自身の帰国第一声のニュースバリューを自覚していたようにも思わせます。

文学館では、開館10周年を記念し、若松市民会館内にある火野葦平資料館の常設展示をリニューアルします。映像機器も導入予定です。どうぞ、ご期待ください。

企画展でみる文学館10年の歩み

【平成18年度】

◇開館記念特別企画展　生誕100年記念『火野葦平・岩下俊作・劉寒吉』展（H18.11.1－H19.1.14）

【平成19年度】

◇第2回特別企画展　作家の自筆原稿でたどる（文学・青春）展（H19.3.24－5.6）

◇「夏休みズッコケ三人組ワールド」「北九州の児童文芸誌『小さい旗』50年のあゆみ展」（H19.7.14－9.2）

◇第3回特別企画展　森鷗外展　をりをりの微笑（H19.10.5－11.4）

【平成20年度】

◇第4回特別企画展「与謝野寛・晶子展　恋ひ恋ふ君と」（H20.4.19－6.8）

◇夏の企画展「くまの子ウーフとたのしい仲間たち　神沢利子展」（H20.7.19－9.15）

◇「生誕100年記念　伊馬春部展　向う三軒両隣りの時代」（H20.9.27－11.30）

◇「森鷗外が支援した夭折の天才発明家矢頭良一展」（H20.27－H21.4.19）

【平成21年度】

◇第5回特別企画展「生きた　書いた　愛した　女性作家の手紙展」（H21.4.25－7.5）

◇「佐藤さとるコロボックル物語展　だれも知らない小さな国」（H21.7.18－8.30）

◇第6回特別企画展「横山白虹―上衣を肩にして歩く―」（H21.10.24－12.20）

【平成22年度】

◇第7回特別企画展「橋本多佳子　雪はげし抱かれて息のつまりしこと」（H22.4.24－7.4）

◇「ちいさないのちのこえがする　みずかみかずよの世界」（H22.7.17－8.31）

◇第8回特別企画展「文学と格差社会　樋口一葉から中上健次まで」（H22.10.23－12.12）

【平成23年度】

◇第9回特別企画展「映画の中の日本文学―昭和編―いつもそばには本と映画があった（H23.4.23－6.19）

◇「昭和20年8月9日は小倉原爆だった」（H23.7.20－8.31）

◇第10回特別企画展「花衣　俳人　杉田久女」（H23.11.3－12.25）

【平成24年度】

◇第11回特別企画展「没後50年記念　読み継がれる　吉川英治文学―巌流島決闘から400年」（H24.4.21－7.1）

◇第12回特別企画展「五味太郎作品展〔絵本の時間〕」（H24.7.7－9.9）

◇第13回特別企画展「働き、書いた―北九州の職場雑誌展」（H24.10.20－H25.2.11）

◇言葉と写真のパネル展　3.11から2年　いま、伝えたいこと―北九州市職員たちの復興支援（H25.3.1－3.31）

【平成25年度】

◇第14回特別企画展「生誕110年　林芙美子展　風も吹くなり雲も光るなり」（H25.4.20－6.9）

◇「忘れてはイケナイ物語り　北九州篇　戦争童話集原画展」（H25.8.1－9.8）

◇第15回特別企画展「恋と革命に生きた女たち」（H25.11.2－12.15）

◇「本の力展　東日本大震災　3.11以降の全出版記録」（H26.3.11－3.30）

【平成26年度】

◇「北九州のディテール展」（H26.4.5－5.25）

◇第16回特別企画展「モンゴメリと花子の赤毛のアン展」（H26.6.14－7.13）

◇第17回特別企画展「キヨノサチコ絵本原画の世界　みんな大好き！ノンタン展」（H26.7.19－8.31）

◇第18回特別企画展「宙のかけらたち　詩人　宗左近展」（H26.10.25－H27.1.12）

◇「北九州と3・11　―ゆかりの作家が書いた東日本大震災―」（H27.3.11－3.31）

【平成27年度】

◇第19回特別企画展「没後99年　夏目漱石―漱石山房の日々―」（H27.5.2－6.21）

◇第20回特別企画展「ピーターラビットのおはなし―ビアトリクス・ポターの世界―」（H27.7.18－9.6）

◇第21回特別企画展「ブンガク最前線―北九州発」（H27.10.24－H28.1.11）

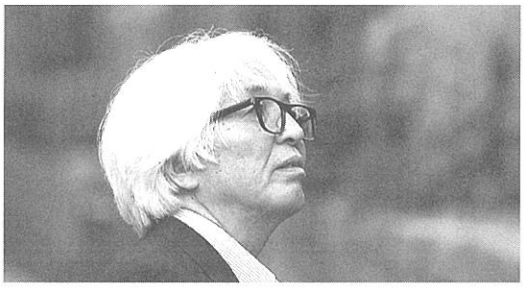
◇「北九州と3・11」（H28.3.11－3.31）

【平成28年度】

◇第22回特別企画展「宮西達也　ワンダーランド展　ヘンテコリンな絵本の仲間たち」（H28.7.23－9.19）

◇文学館開館10周年記念　第23回特別企画展「没後20年司馬遼太郎展―21世紀〝未来の街角〟で」（H28.10.22－12.4）

文学館開館10周年記念 第23回特別企画展開催予告



没後20年 司馬遼太郎展

「21世紀"未来の街角"で」

平成28年10月22日（土）～12月4日（日）

今秋は司馬遼太郎展を開催いたします。司馬遼太郎は『梟の城』で第42回直木賞を受賞し、『竜馬がゆく』『燃えよ剣』『国盗り物語』『坂の上の雲』など戦国、幕末、明治の時代を描いた傑作を数多く遺しました。また司馬は小説のほか、『街道をゆく』『この国のかたち』などのエッセイで、日本の祖形を探り、日本人とは何かを考えつつ、文化・文明論を展開しました。

本展では没後20年を経てなお多くの読者に読み継がれる司馬作品の自筆原稿や、掲載誌のほか、描かれた時代の歴史資料などを展示します。他に『梟の城』を執筆した机など、作家・司馬遼太郎を感じられる資料もあります。併せて司馬と九州の関わりを写真とともに紹介するコーナーも設置予定です。また本展覧会を監修する司馬遼太郎記念館、司馬の自宅も写真でご紹介します。

この秋、本展で作家・司馬遼太郎を感じてください。

イベント案内

開会記念講演

《講師》上村洋行さん（司馬遼太郎記念館館長）

《日時》10月22日（土）11：00～12：00

《会場》北九州市立文学館交流ステージ

トークライブ

《講師》葉室麟さん（直木賞作家）

聞き手：今川英子（北九州市立文学館館長）

《日時》11月24日（木）13：30～15：00

《会場》ウェルとばた中ホール

講演会

《講師》徳永至さん（福岡女学院大学非常勤講師・「九州街道ものがたり」初代ディレクター）

《日時》11月12日（土）13：30～14：30

《会場》北九州市立文学館交流ステージ

協賛上映

小倉昭和館で協賛上映

10月22日（土）～10月28日（金）

司馬遼太郎原作

「梟の城」（東宝　1999年　主演：中井貴一）

「御法度」（松竹　1999年　主演：ビートたけし）

二本立て／¥1100 詳しくは小倉昭和館（093-551-4938）へ

■寄贈者・提供者

青野長幸・塩田勢津子、青森県立近代文学館、赤磐市教育委員会、阿木津英、馬醉木発行所、葦平と河伯洞の会、阿部誠文、有馬記念館、粟谷さやか、石川一歩、伊丹啓子、伊丹三樹彦、市川市文学ミュージアム、いよやよい、いわき市立草野心平記念文学館、上田博、内田聖子、大垣堅太郎、大庭将、岡田功、奥睦美、尾道市文化協会、香川栄基、かごしま近代文学館、神奈川文学振興会、鎌倉文学館、菊池寛記念館、岸原清行、北九州漢詩会、北九州中小企業団体連合会、紀伊國屋書店　出版部、木村和夫、九州大学日本語文学会、くまもと文学・歴史館、黒岩淳、くろつち短歌会、群炎短歌会、群馬県立土屋文明記念文学館、現代詩「虹の会」、古賀紀代美、小倉番傘川柳会、国立民族学博物館、兒玉充代、近藤栄治、さいたま文学館、佐々木基一全集刊行会、定金孝利、事業構想大学院大学、重富佐代子、篠崎義道、彰国社、鈴木比佐雄、世田谷文学館、仙台文学館、船団の会、節のふるさと文化づくり協議会、高田健二、鷹取美保子、高山市役所、田島安江、筑紫野市歴史博物館、千々和恵美子、寺井谷子、童心社、徳島県立文学書道館、直方文化連盟、中尾三郎、長崎市遠藤周作文学館、長野ヒデ子、新名規明、西日本文化協会、日本近代文学館、日本現代詩歌文学館、日本民主主義文学会北九州支部、能村研三、野田宇太郎顕彰会、野中亮介、波佐間義之、服部たか子、葉山修平、日本文藝家協会、姫路文学館、平岡英、廣澤洋子・元彦、廣渡雪路、ふくい風花随筆文学賞実行委員会、福岡市総合図書館、福本弘明、ふくやま文学館、古谷龍太郎、文學の森、文京区立森鷗外記念館、北海道文学館、松ヶ江郷土史会、松本清張記念館、松山市立子規記念博物館、岬の分教場保存会、水城野発行所、水と緑と詩のまち前橋文学館、南川隆雄、宮本苑生、柳生じゅん子、安水稔和、やまなし文学賞実行委員会、行橋市歴史資料館、若窪美恵

■提供雑誌

avanti、藍、青嶺、馬醉木、あしへい、花鶏、あゆみ、あん、いのちの籠、色鳥、沖、海峡派、回游、季節風、北九州国文、九州作家、九州俳句、九大日文、久我山通信、群炎、月刊俳句界、玄海、光円、こだま、子規会誌、自鳴鐘、周炎、新墾、粼、川柳くろがね、川柳むらさき、たまゆら、タルタ、小さい旗、知恵熱、天籟通信、投稿俳句界、西日本文化、虹野、胚、ふよう、文藝もず、水城野、八雁

2016年10月1日 発行

北九州市立文学館

〒803-0813
北九州市小倉北区城内4-1
TEL 093-571-1505
http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/

■ 開館時間
9:30～18:00（入館は17:30まで）

■ 休館日
毎週月曜日（月曜日が休日の場合は翌日）
年末年始

北九州市印刷物登録番号 1609033C